

※ 記入のしかた

- ・毎時到達程度の段階を見て授業前後に記入する。

授業前 △ 授業後 ○

- ・所属グループ A は下位グループ, D は上位グループ

- ・診断・治療場面は各人文章表現にする。

イ 診断・治療カード(技能面を中心にして)

グループ	ねらい	予想されるつまり	再々練習法(グループ内)		
			①側立前転	②倒立前転	③着地
A	△側立前転できる △倒立前転で倒れる △着地できる	①とび箱上で動作をためて転回する。 ②側立姿勢からセッティングマット上に倒れる。 ③マット上に背中をあてて倒立し、一緒に倒れる。 ④壁際での練習をする。	△側立前転	△倒立前転	△着地
B	△側立前転できる △倒立前転で倒れる △着地できる	①とび箱上で動作をためて転回する。 ②側立姿勢からセッティングマット上に倒れる。 ③マット上に背中をあてて倒立し、一緒に倒れる。 ④壁際での練習をする。	△側立前転	△倒立前転	△着地
C	△側立前転できる △倒立前転で倒れる △着地できる	①とび箱上で動作をためて転回する。 ②側立姿勢からセッティングマット上に倒れる。 ③マット上に背中をあてて倒立し、一緒に倒れる。 ④壁際での練習をする。	△側立前転	△倒立前転	△着地
D	△側立前転できる △倒立前転で倒れる △着地できる	①とび箱上で動作をためて転回する。 ②側立姿勢からセッティングマット上に倒れる。 ③マット上に背中をあてて倒立し、一緒に倒れる。 ④壁際での練習をする。	△側立前転	△倒立前転	△着地

④ 診断・治療の実際場面

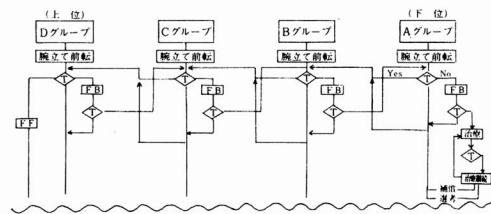
ア 一題材・一単位時間の場面

内 容	診 断	指 导	留 意 点
1. 実態は握 行動目標の設定	1. 対応する 技術・認知・情意 2. まづきの所在 3. 診療カード作成	1. 行動目標の設定 2. 行動目標の実現 3. 下だての準備	○補助教材の準備 ○グループ、ペアの編成 ○個人評価カードの作成 ○判定用紙の提出
2. 対 診 診断・治療	2. 対応する 技術・認知・情意 3. まづきの所在 原因把握	2. 対応する 技術・認知・情意 3. まづきの類型化	○で野球カードに足りない 補助教材、リーダーの養成 ○教育機器(OHP、コンセプトフィルム)の活用
3. まとめ 到達度分析	3. 学習評価カード、事 後テスト等による治療 結果の判定	3. 定着、変化、発展 1. 痛感、震え 2. 保育、打切り	○結果の診断と到達度の分 析 ○次時の到達目標の設定と意 識づけ

エ 指導過程

段	指 導 内 容	時間	フ ロ ー チ ャ ー ト	形態	評 価 と て だ て	留 意 点
課題把握	1. 集合、整列、あいさつ 2. 本時の目標と学習方法の確認 ○学習評価カードの記入	3	START 本時の目標・学習方法の確認	一齊	◇到達目標を決めることができたか。 △学習方法が理解できたか。 □TPによる再説明	○OHPを活用し、イメージ化をはかり目標、学習方法をしっかりと理解させる。
準備	3. 準備運動	7	準備運動	一齊	◇準備運動は適切であるか。 △器具設置は安全か。	○用具の安全点検をし、配置を確認する。
実	4. 腕立て前方転回の練習 (1) グループ毎のまづきの確認 (2) グループ毎の部分練習 ○A クループ(下位)…4 タ ○C クループ(中位)…4 タ ○D クループ(上位)…5 タ	10	腕立て前方転回 まづきの確認 グループ別部分練習 △Aグループ…F-B △Bグループ…F-B △Cグループ…F-B △Dグループ…F-B △E-F	グループ	△□A グループ…倒立姿勢から転回しているか。 △B グループ…倒立から転回し着地で立てるか。 △C グループ…正しい倒立から転回し安全な着地ができるか。 △D グループ…正しい倒立から転回し安定した着地ができるか。 △相互通観と教師観察 □A・B グループ…倒立姿勢からセッティングマット上に倒れる→壁倒立練習 C・D グループ…B・C グループにもどって再練習する。 □班員相互の協力により倒立や転回姿勢を矯正する。 △A・B グループ…正しい倒立姿勢から転回し着地で立てるか。 C・D グループ…スピードに乗った助走から転回し、安定した着地ができるか。 △相互通観と教師観察 □A・B グループ…セッティングマット上に倒立しまって一緒に倒れる再々練習する。 C・D グループ…壁5段のとび箱上から片足倒立転回おりの再々練習する。 △自己到達度が達成できたか □各人の到達度を確認させ、さらには意識づけにむすびづける	○大きな動作で行わせ、閑闊、筋肉を十分ほぐさせる。 ○ヘアラブを通して互助の精神を養成する。 ○相互に観察、補助し合い、技能を向上させる。 ○各グループ毎観点をしほって診断する。 ○個人ごとに再練習、再々練習の二方がちがっても恵すかしがらばに練習させる。 ○治療面でコンセプトフィルムを活用し、理想的なフォームを頭において再練習させる。
践	(3) グループ毎の総合練習 (4) 相互通観による練習	10	グループ別総合練習 △A・B・C・D △E-F	一齊	△下位 クループは倒立姿勢→転回→着地に重点を置いて練習させる。 △上位 クループはとび箱5段から6段の高さに挑戦させる。 △上位 クループで自分の目標に到達した生徒は下位 クループの生徒に積極的に補助させる。 △他人の演技をよく見させ、また他人の批評をよく聞いてまづきの解消に努力させる。	
整理	5. 整理運動	3	整理運動	個別	△A・B クループ…セッティングマットを背に倒立しマットと一緒に倒れる再々練習する。 △C・D グループ…壁5段のとび箱上から片足倒立転回おりの再々練習する。	○学習評価カードに記入させ到達程度を確認させる。
発表	6. 本時のまとめ 学習評価カードの記入	5	本時のまとめ 自己評価	一齊	△自己到達度が達成できたか □各人の到達度を確認させ、さらには意識づけにむすびづける	○自己の到達度に達した生徒が多い場合には賞賛し、次時の意欲がけにむすびづける。 ○「学習評価カード」を提出させ、次時の診断治療に役立てるようにする。 ○正しい倒立姿勢ができるよう家庭学習課題とする。
	7. 次時の学習課題の確認	2	次時の課題確認 END	一齊		

イ 授業時の診断・治療の具体場面(技能中心)



⑤ 検証授業

ア 題材名 とび箱運動—腕立て前方転回
イ 指導計画 6 時間

⑦ 事前テスト・グループピング 1 時間

① 腕立て前転の練習(倒立) 1 分

② ク (グループ練習) 1 分(本時)

③ ク () 1 分

④ ク (総合練習) 1 分

⑤ 腕立て前転の練習(事後テスト) 1 時間

ウ 本時の目標

⑦ 学習カードをもとに指導過程に診断治